

2006年12月26日

横浜市長 中田 宏様

金沢八景御伊勢山権現山の保全について（要望）

特定非営利活動法人 神奈川県自然保護協会
理事長 新堀豊彦

生物多様性国家戦略では①開発や過剰利用等人間活動によるインパクト②人間活動の縮小や生活スタイルの変化によるインパクト③外来種によるインパクトを挙げて野生生物の現状分析をしているが、これに挙げられた①及び②に依って横浜の野生生物は激減した。特に②による改変は、かつて市街地の周辺にあった里地里山の自然の喪失乃至は劣化を招き、そこに生えていた植物やそこに暮らしていて動物たち、つまり身近な生き物のほぼ5割が絶滅したと報告している。

こうした状況の中、御伊勢山権現山では、奇跡的にほぼ50年前の自然の多様性を維持していることが明らかになった。

横浜国立大学環境科学研究センター植生学研究室の調査報告では、横浜市の本来の植生であるスタジイを主体とする常緑樹林が南側の2つの尾根の山稜部に拡がり、中央尾根付近の平坦部にはコナラ、ヤマザクラを主体とする雑木林が拡がり、更にモウソウチクの竹林、アズマネザサ草原を交え、ほぼ50年前の姿で、里山を構成する植生を揃え、数々の身近な生き物たちの生存を記載している。また昆虫グループによれば、いまや絶滅危惧種とされるオオムラサキ、スミナガシ、ヒオドシチョウ、そしてヒラタクワガタ、スジクワガタを目撃し、今やすっかり少なくなったミズイロオナガシジミやアカシジミも見つけている。

横浜市域の生物多様性保全のために、また現在殆どが荒廃し、生物多様性を大きく損ねている地域の自然再生の目標のためにも、この地の保全は緊急の使命だ。文化財保護法、都市緑地保全法等の適用による保全措置を取られることが緊急に必要であり、買い取りこそが保全のための最短の手段であることから、買い取りへのご努力を強く要望します。